

## 編集室

## 平成28年4月10日(日曜日)

今日は広島でG7外相会議が始まる歴史的な日だが、わが家では隣のご主人の関係する某アパレルメーカーの社販に行くため交通規制に掛からないように早く家を出ることになっていた(結婚以来決めた時間に家を出られたためではないが、いろいろあるのだから仕方がない)。何をかう訳でもなく義理で通っている社販の会場に着くと、英国ブランドの紳士服売り場に直行し「A5のスーツはないよね」と顔なじみのオジサンに確認して今日の仕事は終わりのはずだった。が、孫の服でもとフラフラしていたらお姉さんに「サイズは？」と不意に問われ「A5」と答えてしまった。さらに「このグレーはいかがですか？」に「チャコールグレーはないの？」と答え、「お似合いですよ」の一言でスーツを買う羽目になっていた。さらに「裾は3cmのダブルで」とお願いしたら「最近では4cm幅が流行ですが、いかがでしょうか」の声に「本当？ではそれで」ここまでの十数分一言も発しない家内の優しい呆れ顔が「またね」と言っている。

帰る途中うどん屋の“ちから”のショーケースのおはぎが目に入った。「食べる？」と聞こうと横を見ると「昼ごはんは作りたくない」オーラ満載の家内の横顔。おはぎにうどんのお持ち帰りも付いてくることになった。こしのある讃岐うどんに比べると柔らかく小学生の時を思い出させてくれる“ちから”のうどんである。

午後から知人の写真展にこちらも義理を果たすために紙屋町界隈に出かけた。コーヒー豆の焙煎屋が入っているいつもの駐車場に車を止めコーヒーの香りを楽しんだ後、写真展で記帳を済ませる。駐

車場に帰る途中、旧日銀に一度も足を踏み入れたことがないことに気付く何気なく数段の階段を登って中に入ってみた。1階のフロアーで何やらイベントがあり“Stand by Me”が流れていた。伽藍とした被爆建物の中であの日を迎えた人たちのことを想像してみた。

帰宅すると義理の両親が来ていた。テレビは福井が阪神打線に滅多打ちにされた直後のカーブの攻撃を映していた。義父にソファを勧めたが、30数年たっても一緒に座ってテレビは見られない。昨夜婿がソファの横に立ってテレビを見ていたのと同じ構図である。婿とはそういうものなのだろうと思う。しばらくするとカーブの大逆転が始まり大いに盛り上がり、最高潮のときに義母が「何対何が一番面白いんかいねえ？」と言。「8対7でルーズベルトゲームの事じゃないん」と息子。結局永川・中崎の活躍でハラハラドキドキの文字通りルーズベルトゲームになった。

人類最初の被爆地広島で始まったG7外相会議、マンハッタン計画を承認したルーズベルト、旧日銀の中で聞いた“Stand by me”、平和な日常の中のどのような因果だったのだろうか？

人工知能、ロボット、数値最適化などの言葉を羅列し、“医療にも自動化の波が来るその時に必要な事は”をテーマに編集室の原稿を執筆したが、あまりの陳腐さに閉口し、全く違う観点から今日一日を日記風に書いてみた。この原稿が永久に残るのであれば医師会速報に個人の日記が一度くらいあっても良いのではないだろうか。

(平林 直樹)

## 広島県医師会速報 2016年(平成28年)4月25日

- 発行所／一般社団法人 広島県医師会 〒732-0057 広島市東区二葉の里三丁目2番3号 TEL 082-568-1511 FAX 082-568-2112 広島県医師会HP <http://www.hiroshima.med.or.jp/> E-mail: [kouhou@hiroshima.med.or.jp](mailto:kouhou@hiroshima.med.or.jp)
- 編集者／広島県医師会長 平松 恵一 (広報委員) 山中 祐介、小園 亮次、高路 修、佐々木 達、佐々木 龍司、谷 充理、中尾 三和子、平林 直樹、正岡 良之、吉田 良順、小笠原 英敬、水野 正晴、岩崎 泰政
- 印刷所／レタープレス株式会社 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809番地の5 TEL 082-844-7500 FAX 082-844-7800